

## 中国の大学の日本語授業の問題点とその解決方 —教師グループの内省シートに基づく分析

北京外国語大学 朱桂榮

### 1. 研究の背景

2018年に中国の教育部より《普通高等学校本科专业类教学质量国家标准》（『大学の学部専攻教育の質に関する国家基準（筆者訳）』）が発表された。専攻として必要な条件・整備・評価に関する要求が明記されている。これは中国の大学の学部専攻教育の質に関する初めての国家基準である。さらに、2019年に教育部が「新文科作り」という施策を決定した。2020年には《普通高等学校本科外语语言文学类专业类教学指南》（『大学の外国語専攻教学手引き』（筆者訳））が発表された。

日本語教育は外国語専攻の中の一つである。この一連の施策により、日本語を専攻する大学生の育成に関して、知識・能力・素養における明確な要求が提出された。このように、教育の質が求められている中で、授業改革も求められるようになった。一方、教師が授業の質の決め手だということはいままでのない。このような認識と関連して、教師研修を通して日本語教師の授業改革の意識を高め、授業改革を促す必要性がますます認識されるようになった。

### 2. 研究概要

中国では、「日語教学研究会」（中国語名）という組織によって主催された大学日本語教師研修会は最も影響力のある研修である。上述した中国の日本語教育を巡る新たな変化に対応するために、同会によって中国安徽省で「2018年大学日本語教師研修会」が開催された。表1のように、講演や日本語教師による授業のやり方の紹介の外に「知識・能力・素養をともに重視する授業デザイン」を題とするワークショップも開催された（表2）。全国50大学から100名の日本語教師がワークショップに参加した。

表1 2018年の大学日本語教師研修会

| 研修テーマ：新しい時代における人材養成及び日本語授業デザイン |                                                                            |
|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 初日（午前）                         | 講演1：『大学の学部専攻教育の質に関する国家基準』（筆者訳）<br>講演2：日本語教師に求められる資質・能力—日本の動向と今後の課題（日本人研究者） |
| 初日（午後）                         | 教師による授業のやり方の紹介：<br>1.「基礎日本語」授業 2.「日本語通訳」授業 3.「日本語読解」授業 4.全体討論              |
| 二日目                            | ワークショップ：授業デザインのふり返りと交流（授業の問題点、解決案と成果発表）                                    |

表2 ワークショップの作業と流れ

|                                                             |
|-------------------------------------------------------------|
| 1. 個人によるふり返り：日本語教育実践における問題点を探り、その原因を考えて、タスクシート①を記入する        |
| 2. グループ報告：タスクシート1に基づいてグループ内で報告し合う                           |
| 3. グループ討論：グループメンバーが授業デザイン上の共通の問題点を探し、その解決案を考えて、タスクシート②を記入する |
| 4. 授業案をデザインし、ポスターを作成し、クラスで報告し合い、代表例を選ぶ                      |
| 5. 成果展示と報告：すべてのポスターを会場に展示し、代表例を全体の前で報告する                    |

朱（2021）は、上記研修会のワークショップを対象に、大学教師の内省（ワークショップのタスクシート①）に基づいて大学日本語教育における問題点とその原因について分析した。さらに、朱（2022）では上記研修会のワークショップにおけるグループ報告とグループ討論に焦点を当て、そこで見られたグループ内省を質的に分析した。

本稿は、シリーズ研究として、このワークショップの成果に注目し、代表例として報告された授業デザインの事例を通して、教師がどのような問題点に気づき、またどのような解決案を考えたのかを示したうえで、「知識・能力・素養をともに重視する日本語授業の実現」における可能性と残された課題について述べる。また、中国の大学日本語教師のレベルアップにおけるワークショップなどの教師研修活動の意味も論じる。